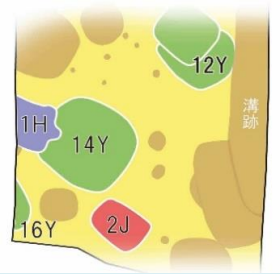
# 氷川前遺跡第99-1地点　発掘調査速報

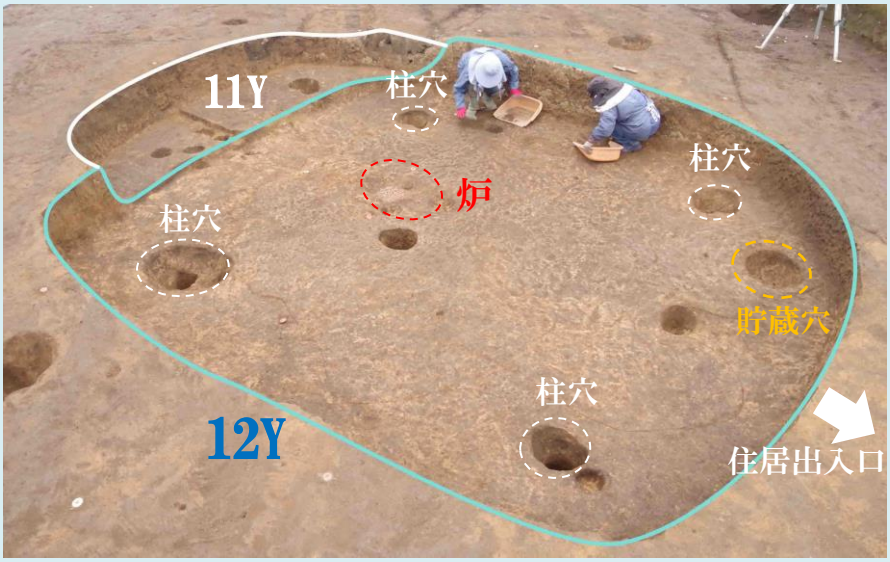
作成日：2024.2.15
富士見市教育委員会
生涯学習課 文化財G

## ― ⑨ 令和5年12月4日～12月13日 ―




12月13日までの調査では、縄文時代住居跡仮称2J、弥生時代の住居跡仮称12Y・14Y・16Y、平安時代の住居跡仮称1Hなどの遺構を完掘しました。
また、12月13日には、ドローンを飛ばしての調査区空撮写真の撮影を行いました。

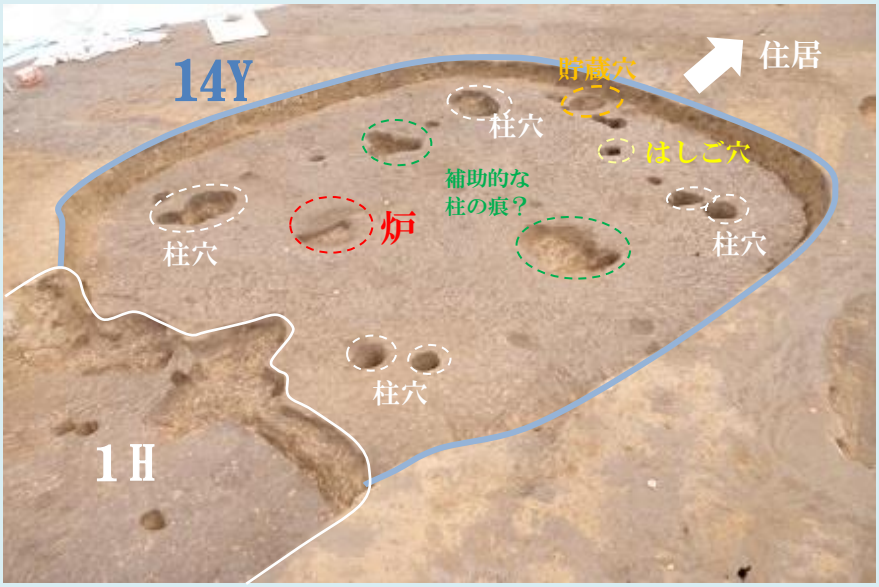
## 12Y（仮称）




完掘状況

火皿式炉とその断面

12Y（仮称）は、約5.4m×5mの隅が丸い長方形の竪穴住居跡です。4本の主柱穴、住居中心やや奥の炉、出入口部脇の貯蔵穴と、弥生時代の標準的な住居跡と言える、しっかりとしたつくりです。炉の部分には床面に粘土を張り付けて、「火皿式炉」を設けていました。同じく弥生時代の住居跡である11Y（仮称）とは重なり合っています。2軒の住居の前後関係としては、12Yの方が古く、11Yがより新しい住居です。




完掘状況（南西から）

## 14Y（仮称）

発掘中の様子（南東から）

14Y（仮称）は、約6.5m×6mの、隅が丸い長方形の竪穴住居跡です。今回の調査で検出された弥生時代の住居跡としては、もっとも大きなものでした。住居跡4隅付近の主柱穴に加えて、それらを繋ぐような位置に掘り込み（緑色の破線で示した部分）があるのが特徴的です。この掘り込みは、他の柱穴に比べて掘り口が広く、お碗のような形をしていました。大きな住居の屋根や「のき」を支えるために、補助的な柱のようなものがあったのかもしれません。

## 16Y（仮称）

完掘状況(東から)

炭化材・焼土の出土状況
(南から)

16Y（仮称）は、調査区の南西端で検出されました。調査区内で確認できたのは全体のごく一部であり、住居全体の様子は不明ですが、隅丸方形の弥生時代住居跡の、南東カド部分に相当すると思われます。住居の床面では、炭化した木材や焼土がやや多く出土しました。

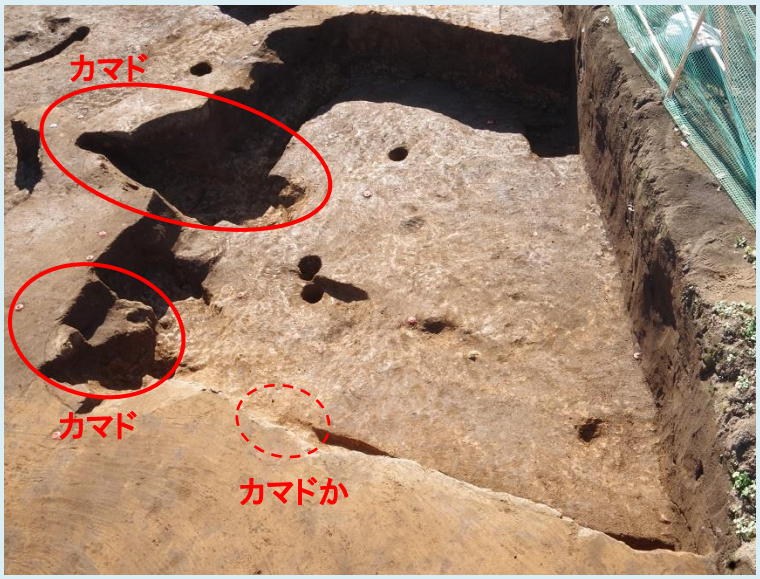
# 2J（仮称）

完掘状況

発掘中の様子

2J（仮称）は、調査区の南端で検出された、縄文時代前期の住居跡です。約4×3mの長方形を呈しており、この時期の住居跡としてはやや小ぶりで、掘り込みも浅いものでした。貝層が検出された1J（仮称）とは、おおよその時期を同じくしていると思われますが、こちらの住居跡には貝殻は廃棄されていなかったようです。

# 1H（仮称）




完掘状況

9世紀末～10世紀のものと思われる、平安時代の住居跡です。一辺が約3mの方形で、住居北側と東側にカマドを設けています。

出土した鉄製品（紡錘車）

# ドローンによる空中写真の撮影

▲南方向から撮影

▲調査区とその周辺

12月13日には、ドローンを飛ばしての調査区空撮写真の撮影を行いました。